



●文献紹介 [色彩の本]

367の顔料と染料、17の絵画の顔料分析、19の色彩の物語
(Das Farbenbuch: 367 Pigmente und Farbstoffe, 17
Pigmentanalysen von Gemälden, 19 Farbgeschichten)』S.
Muntwyler; J. Lipscher; H. Schneider, Elsau: Alataverlag,
2022/ 2023.

2022年夏、ドイツにて496ページの色彩事典が発刊された。(現在は第2版)

ページをめくると、367の顔料と染料について、名称・化学組成・生物学的特性・由来・製造法・歴史的受容・独自性・媒剤・使用法が、フルカラー写真と共に網羅される。

本書の特長は、色料という物質の情報が領域横断的に網羅され、かつ、歴史上の美術作例と共に示される点にある。

西欧の大学では、たとえば美術史学専攻のカリキュラムに修復やオークション会場見学も含まれるなど、従来の枠組みは積極的に乗り越えられつつある。今後の通信で

本書から紹介してまいります。

(主査：
山根千明)

Das Farbenbuch



●JIS Z8102 物体色の色名・系統色名

この規格は、物体色の色名のうち、表面色の色名について規定されているが、透過色の色名についても準用しても良いことになっている。

定義されているのは、物体の色を系統的に分類して表現する「系統色名」と、慣用的な呼び方の「慣用色名」である。

系統色名は、基本色名に修飾語をつけた色名である。

有彩色の基本色名は、赤、黄赤、黄、黄緑、緑、青緑、青、青紫、紫、赤紫の十種である。また、無彩色の基本色名は、白、灰色、黒の三種である。

更に、有彩色の明度及び彩度に関する修飾は、あざやかな、明るい、つよい、こい、うすい、やわらかい、くすんだ、暗い、ごくうすい、明るい灰みの、灰みの、暗い灰みの、ごく暗いの13種である。

また、無彩色の明度に関する修飾語に、うすい、明るい、中位の、暗いがある。

更に、色相に関する修飾語として、赤みの、黄みの、緑みの、青みの、紫みのという他に、低彩度色用の、紫みを帯びた、赤みを帯びた、黄みを帯びた、緑みを帯びた、青みを帯びたの修飾語がある。

(永田泰弘)

●日本の伝統的な色名・紫

紅樹：こうじゅ。紅葉した樹木。オヒルギなど、ヒルギ科の常緑樹。